

## 山陽小野田市食育推進会議議事録

会議の種類	令和3年度第2回山陽小野田市食育推進会議		
日時	令和3年10月12日(火) 15:00～16:40		
場所	高千帆公民館2階		
出席者	市 民 代 表	磯 部 美 幸 ( 委 員 )	
	市 民 代 表	井 本 和 幸 ( 委 員 )	
	小 野 田 飲 料 店 組 合	窪 井 紀 彰 ( 委 員 )	
	山 陽 小 野 田 市 保 育 協 会	島 田 佳 奈 ( 委 員 )	
	山陽小野田市母子保健推進協議会	高 木 理 代 ( 委 員 )	
	山陽小野田市立山口東京理科大学	立 花 研 ( 委 員 )	
	山陽小野田市地球温暖化対策地域協議会	内 藤 美 恵 子 ( 委 員 )	
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半 矢 幸 子 ( 副 会 長 )	
	山 口 県 漁 業 協 同 組 合	久 中 幸 子 ( 委 員 )	
	山 陽 小 野 田 市 教 育 研 究 会	増 田 和 美 ( 委 員 )	
	小野田南高泊干拓農業協同組合	松 村 孝 子 ( 委 員 )	
	宇部フロンティア大学短期大学部	山 下 晋 平 ( 会 長 )	
	山 口 県 私 立 幼 稚 園 連 盟	渡 邊 和 憲 ( 委 員 )	
	(出席者数 13人)		
欠席者	山口県販売協力店連携協議会	大 谷 浩 彦 ( 委 員 )	
	山口県立厚狭高等学校	森 祐 子 ( 委 員 )	
	(欠席者数 2人)		
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	納 屋 早 与 子	
事務局	福 祉 部 部 長 兼 本 裕 子	福祉部次長兼健康増進課長	尾 山 貴 子
	補佐兼健康増進係長 大海弘美	健康増進係長(食育)	加 藤 諭 香 江
	健康増進課技師 内田直子		
食育推進庁内連絡会	市民部次長兼環境課長 梅田智幸	高齢福祉課長	麻 野 秀 明
	子育て支援課長 長井由美子	学校給食センター所長	山 本 修 一

	1 開会あいさつ
	2 議事
事務局	(1) 令和2年度山陽小野田市食育推進事業報告について (資料1事務局から説明) 資料1について、本日、欠席委員より事前に意見をいただいているので、紹介したい。
(欠席委員)	コロナ禍での影響については、家庭での食事の機会が増えたこともあり、飲食業や宿泊業と比べて、好調に推移した。十分な感染対策を実施するため、マスク着用や手指消毒等のお願いをしているが、販売方法としては、これまで、ばら売りしていた商品も全てパック売りに変更した。また、地産地消コーナーを設置し、販売している。11月のスマイルエイジング強化月間では、応援サポーターとして、地産地消の啓発を行う。12月中旬には、高千帆石井手地区に新店舗がオープンする予定で、引き続き、地産地消等の取組を行っていききたい。
会長	とのご意見をいただいている。
委員	資料1の「1 家庭における食育の推進」について御意見はあるか。 コロナ禍で母親同士が集まる機会が減って、情報交換の場が少なくなっている。インターネット等で検索すれば情報を得ることはできるが、正しい知識を得られているか疑問に感じることもある。コロナの感染状況により教室等が中止になっても対応できるオンラインを活用した、市や行政から正しい情報を得る機会となるよう情報提供に力を入れて欲しいと思う。
会長	コロナ禍で教室の中止等で保護者が食に関する知識を得る機会が減少していると思うが、情報発信について食育推進庁内連絡会の委員からも御意見をいただきたい。
連絡会委員	もぐもぐはかせ教室、ミニしょくいくはかせ教室については、小さな子どもを対象にしており、集うことが難しい時期には教室中止をせざるを得なかった為、その代替え手段については今後の課題と感じている。
委員	減塩プロジェクトについて、塩分濃度計の貸し出し状況を教えて欲しい。
事務局	広報への掲載や出前講座での周知は行っているが、昨年度の一般の方への貸し出しは1件のみ。地区組織が行う地域の料理教室で使用し、参加者へ塩分濃度計の活用方法や貸し出しについて周知している。今後も様々な場所で周知を行っていききたい。
会長	資料1の「2 学校、保育園等における食育の推進」について御意見はあるか。
委員	保育園の、給食時間におけるの指導は、コロナ禍でもできる方法を職員で考えて実施している。コロナ禍だからといって諦めるのではなく、実践可能な方法を検討しながら今後も指導を継続していききたい。
会長	幼稚園での食育の現状はどうか。
委員	情報の発信については、デジタル化に力を入れており、1か月ごとに

委員	<p>保護者に提供する献立表は紙媒体はやめる方向で、アプリで配信しており、企業と連携して食育コラムも同時に配信している。また、園児を対象に、年に数回程度、食育についての講話を行っている。未就園児については、月4回程度子育て支援の一環として、親子で集える場を提供しているがそこで、園の給食を実際に食べてもらっている。</p> <p>食物アレルギーや嗜好の偏りについて増加傾向にあるように感じるが、要因はどのように考えるか。また、情報発信はどのように行われているか。</p>
事務局	<p>アレルギーについては様々な要因が影響している。一部の理由としては、離乳食期にアレルギーを不安に感じる保護者が慎重になり、離乳食の開始を遅らせることで発症リスクを高めているということもある。嗜好については、離乳食期から色々な食材に触れることが大切である。保護者が正しい知識を獲得していけるような情報提供も含めて、今後も発信を行っていききたい。</p>
会長	<p>学校現場での給食や食育の状況はどうか。</p> <p>給食時間には同じ方向を向き、黙食を行っている状況。調理実習の実施も、難しいことが多いため、家庭で調理する課題を出して各家庭で協力してもらうなどの対応を行っている。また、給食センターへの見学は再開予定。コロナ禍で実施が難しい部分もあるが、工夫しながら食育を行っている。</p>
連絡会委員	<p>給食センターへの見学が再開されるということだが、見学の状況についてはどうか。また、親子食育料理教室は今年度実施されるのか。</p> <p>見学会について、昨年度は2回実施。今年度は感染予防のために実施していなかったが、現在は受付を再開し、2件の申し込みがある。感染状況をみながら受け入れていきたい。親子食育料理教室は毎年、夏休みの時期に開催していたが、今年度は未実施であるため冬休みか春休みの期間中で実施を検討している。</p>
会長	<p>大学生の食育や食課題についてはどうか。</p> <p>1年生の講義の中で、食生活改善推進協議会による講義を実施している。コロナ禍で講話のみであるが、大学進学に伴う環境変化の時期に講話を聞くことが大切であると感じる。実際に講話後からお弁当を作り始めた学生もおり、良い効果が出ている。今後も継続していきたい。</p>
事務局	<p>資料1の「3地域における食育の推進」について御意見はあるか。</p> <p>地域で男性料理教室を年に数回担当しているが、参加者の目的やレベルに合わせた複数コースの教室を開催するべきではと感じる。</p> <p>以前、一部校区の男性料理教室で、初心者向けの教室を開催していたことがあるが、地区組織のマンパワーも含め複数開催は難しいところもある。市全体の課題として検討し、校区ごとでなく市全体での開催も含めて、地区組織と連携しながら取り組んでいければと思う。</p>
会長	<p>コロナの影響で飲食店への影響は多大であると思うが、現状についてはどうか。</p> <p>飲食店全体がかなり疲弊している状況。ヘルシーレシピの提供につい</p>

会 長	<p>での取組も、そこまで辿り着けない。厳しい状況の中だが、地域との連携を取り、どのように利益を上げていくかを検討していくのが課題。</p>
委 員	<p>資料1の「4 食育推進運動の展開」について、ボランティア活動の中止や延期など、地区組織活動の影響や、現状についてはどうか。</p>
会 長	<p>食生活改善推進員養成講座の中止や延期で、新しい会員を増やすことが難しい現状。会員の高齢化も課題。食に関する活動の中で、楽しく食事をする場面が非常に少なくなっていることを危惧している。少なくとも家庭の中での共食の大切さを伝えていける活動を行っていききたい。</p>
委 員	<p>市は様々なツールを活用して食育に関する推進活動運動をしているが、実際に市民に必要な情報は届いているか。</p>
事 務 局	<p>食育ランチョンマットは、食育のツールとして有効と感じる。もっと普及すると良い。また、市が主催する教室等に参加しない人に対する啓発として、スーパー等の売り場で情報発信を行えば自然と目に入り、啓発につながるのではないかと思う。</p>
委 員	<p>食育ランチョンマットの普及についてはホームページには掲載している。配布は、保健事業などで直接使い方を説明できる場面でのみ配布しており、すべての市民には届いていない現状はあるが、今後も普及、啓発に取り組んでいきたい。また、店舗との連携を行い、啓発の場として活用していけるよう考えていく。</p>
事 務 局	<p>住んでいる校区で、中学校の家庭科でボランティアとして活動しているが、他の校区でもボランティアしたい人とボランティアを募集している側をつなげるような連携があると良いと思う。</p>
会 長	<p>おそらく、コミュニティースクールの一環としての各地域ごとのボランティア募集ではないかと思う。それぞれの校区の地域住民と子どもたちを育てていこうという取り組み。それとは別に、専門的な立場の指導を行うために、授業等で、講師の紹介を依頼される場合には健康増進課へ相談されることもあるため、随時ご紹介はしており、今後も地域と連携をしていきたい。</p>
連絡会委員	<p>高齢者を対象とした事業では、地域の主体的な活動が重要であると思うが、コロナ禍では地域の活動はどのような状況か。</p>
委 員	<p>住民運営通いの場ではかみかみ体操を実施し、口腔機能の維持や活性化から介護予防につなげる取り組みを行っている。昨年度は、住民運営通いの場を中止されることもあったが、参加団体が増えたため、実施回数としては増加している。今年度もコロナの影響もあるが、地域で主体的に活動しておられる現状である。</p>
会 長	<p>「5 生産者と消費者の交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等」「6 食文化の継承のための活動への支援」「7 食品の安全性に関する情報提供等」について御意見はあるか。</p>
委 員	<p>感染対策で、家庭で食事をする機会が更に増えているが、買いすぎから食品ロスにならないよう、また、食品包装等の有効資源のリサイクルについても啓発が必要であると考えている。</p>
会 長	<p>感染対策で、個包装やパック詰め等が増えている。感染対策と環境の</p>

委員	<p>保護を両立するためにも、有効資源を知り、分別やリサイクル等の知識を持つことも重要である。</p> <p>地産地消を進めていく中で、コロナ禍での課題はあるか。</p> <p>小学生の社会科見学の受け入れを中止していたが、現在は見学方法を工夫し、再開している。また、収穫体験や地元食材をつかった調理体験等の企画を検討していたが、イベントは中止になることが多かった。感染状況をみながら、イベントを計画・実施し、啓発の機会としたい。</p>
委員	<p>スーパーの弁当を見ても魚はあまり使われておらず、家庭での魚調理の機会も減っており、魚離れの深刻さを感じる。イベント等で周知することも大切であると考えている。</p>
委員	<p>大分県の大学で、地域でとれる薬草を使った料理教室が行われていると新聞で見た。山口東京理科大との連携で、植物園でとれる植物を使った教室が行われている。地産地消という観点では、薬草など大学の特徴を生かした、このような取り組みが広がればと思う。</p>
会長	<p>実際に体験を通じて、地元の食材などを知ることは大切だが、イベントの中止で、そういった経験ができなくなっていることは課題。感染状況をみながら体験の場を提供してもらいたい。</p>
連絡会委員	<p>食品ロスについてはSDGsの中でも重要とされているが、啓発等についてどのような形で行われているか。</p>
連絡会委員	<p>食べきり協力店の拡大を行っている。協力店を募集し、食べきりメニューの提供を行い、食べ残しが少なくなるような取り組みを行っている。コロナ禍で、飲食店はいかに経営していくかという状況であるため、今年度に入っては新たな登録店はないが、今後コロナの状況が落ち着けば、改めて協力店の拡大を図っていきたい。</p>
会長	<p>(2) 第2次山陽小野田市食育推進計画中間評価(食育に関する市民意識調査について</p>
事務局	<p>(資料2事務局からの説明)</p> <p>資料2について御質問、御意見はあるか。</p> <p>(特になし)</p> <p>(3) その他</p> <p>(特になし)</p>
事務局	<p>3 その他</p> <p>11月をスマイルエイジング強化月間としている。強化月間中には、昨年度同様、市民の健康づくりのきっかけとなるよう様々な取り組みを行う。11月21日に厚狭地区複合施設で健康フェスタを開催予定。規模を縮小して感染対策を取りながら実施。オンラインでも期間限定で配信する。11月27日には、山口東京理科大学との連携により市民館で市民フォーラムを開催する。事前申し込み制。11月の強化月間中に、健康の基本となる運動の習慣化を目指して「目指せ1万人！市民体操SOSおきよう体操」を実施する。各事業に関して、啓発や参加もお願いしたい。</p>

	閉会。
--	-----